

年内行事

■1月26日 愛宕神社の火祭り ■2月第1日曜日 魚津「かにの陣」	■3月中旬 ミラー・ジュランドオープン	■4月 魚津しんきろうマラソン 桜のページェント ■5月最終日曜日 戦国のろし祭り
■6月4～6日 魚津神社祭礼	■8月上旬 じゃんとこい魚津まつり たてもん祭り、花火、灯籠流し、 せり込み蝶六踊り街流し ■8月中旬 全日本大学女子野球選手権	■9月第3土曜日 八幡社みこし祭り ■10月中旬 まるまる魚津（産業フェア）
■奇観しんきろう 4月から6月上旬にかけて、 晴天で風がなく、気温が上昇して 眠気をもよおすような日、 10時から4時頃にかけて対岸の 沖合いにあらわれる「幻の電宮」。	■毎月第2・4日曜日 魚津の朝市	■12月～2月 イルミラージュUOZU

四季の味

春	ワラビ、ゼンマイ、ホタルイカ、アマエビ、 バイ貝、イカ、タイ、ヒラメ
夏	リンゴ、ブドウ、アユ、アジ、イカ、タイ、 アマエビ、バイ貝、ズスキ、ツパイソ
秋	リンゴ、ナシ、カニ、タラ、アジ、アオリイカ、 アマエビ、バイ貝、フクラギ、タイ
冬	カニ、タラ、ブリ、アンコウ、アジ、イカ、アマエビ、 バイ貝、ヒラメ、ハマチ、カワハギ、クルマダイ、タイ



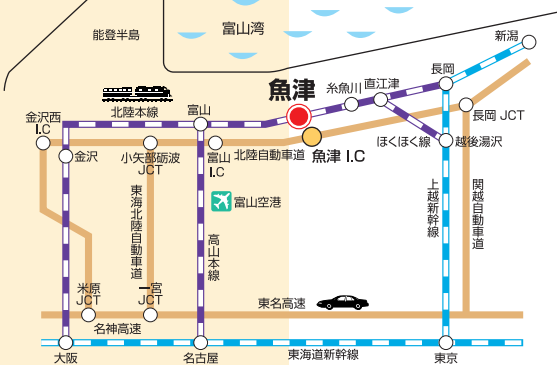


魚津寒ハギ
如月王

味・土産品

- 魚津かまぼこ
古くからつちかわれた伝統の味に加え、
色とりどりの種類をもつかまぼこ。
- 特産塩干物
地元でとれた新鮮な魚をもとにつくら
れるおいしい塩干物。

魚津ブランド(12月～3月頃)



魚津市商工観光課

〒937-8555富山県魚津市釈迦堂1丁目10番1号
TEL (0765) 23-1025 FAX (0765) 23-1060
Eメール:syokokanko@city.uozu.lg.jp
URL:http://www.city.uozu.toyama.jp/

魚津市観光協会

〒937-0067富山県魚津市釈迦堂1丁目12番18号
TEL (0765) 22-2244 FAX (0765) 23-0120
Eメール:uozucci@toyama-smenet.or.jp
URL:http://www.ccis-toyama.or.jp/uozu/



神秘とロマンが見える不思議
しんきょうろう

出現 蜃気楼

蜃気楼の季節は春から初夏、3月下旬から6月初旬にかけてです。2、3日晴天が続く、穏やかな海面に1、5メートルぐらいの北北東の風が吹くと、雲か霞みが浮かび上がるようにして姿を現します。短いもので数分、長ければ数時間にもわたって幻想的な姿を見せます。この時期、魚津は「不思議な世界」に変身するのです。



(出現前)

(変化し続ける映像)

蜃気楼のメカニズム

蜃気楼は、上暖下冷の空気層の間で光が屈折して観察者の目に届き、実像が伸びたり反転した虚像が見える現象です(図)。

従来、富山湾に流れ込む冷たい雪解け水が、大気の下部を冷やして上暖下冷の空気層を作ると考えられてきました。しかし、最近の調査では、下層が冷やされるのではなく、蜃気楼発生時にはむしろ上層に陸地から暖気が流れ込んでくる現象が確認されています。今後の研究によって、また新たな説が生まれる可能性もあります。いずれにしても蜃気楼の機構は複雑で、二つの説ですべてを説明することはできないかもしれません。「謎が残されている方がロマンがある」ともいえるでしょう。

しんきょう現象

古くから人々の心を
とらえてきた蜃気楼

魚津の蜃気楼は、古来より有名でした。それは多くの古書に記されていることからわかります。いつの時代も、蜃気楼は人々のロマンをかきたてたのです。見る人によつて、それは楼台であったり、城門であったり、また龍宮城であったりしました。たとえば、約400年前の水禄7年(1564年)、長尾輝虎(後の上杉謙信)が部下とともに魚津で蜃気楼を見たという記録が、肯構泉達録(1815年2月刊)に残されています。

永禄七年五月下旬、魚津の海上に蛇の城を造るを見てとて、男女老若集りて市をなす。これは蛤の気を吐くにこそあれ。中華にも所謂蜃楼これなり。また支那登州の海上に春夏の間この気あり。城郭市廛依稀として人馬の往来絡繹たり。土人呼んで海市といふ。また西域にもこれに類する事あり。旭日出る時、紅暉天に映じて、楼門・宮闕・官人などの出入りするを見る。日輪高く昇れば、すなはち消滅す。これを乾闥婆城といふ。惣じて乾坤の間、陰陽造化のなす所、測り知るべからずといへり。魚津海上の蜃楼、日本には希なる事なりと、この節、輝虎・本庄繁長・柿崎景家を始め諸士、馬を駐めて見るといふ。

江戸川乱歩が小説の中で
描写した蜃気楼

―私はその時、生まれてはじめて蜃気楼というものを見た。蛤の息の中に美しい竜宮城の浮かんできいる、あの古風な絵を想像していた私は本物の蜃気楼を見て、背汗のにむような恐怖に近い驚きにうたれた。(中略)蜃気楼とは、乳色のフィルムの表面を墨汁をたらして、それが自然にジワジワとにじんで行くのを、途方もなく巨大な映画にして、大空にうつし出したようなものであった。(後略)

「押絵と旅する男」より

蜃気楼の伝説

かつて、ここに住む人たちのあいだでは、1000年も年をとったマグラの吐く息が、この奇怪な蜃気楼現象を起こすと言ひ伝えられていました。

神秘とロマンが見える不思議

しんきょうろう

蝶のように舞い踊る

せり込み蝶六

勇壮・華麗な漁の舞い

たてもん祭り



埋没林博物館のご案内

埋没林は約2000年前、海水面の上昇や片貝川の氾濫などによって埋没したと考えられています。樹齢約500年のスギ原生林の樹根が発掘されたその場で保存展示されています。過去の環境変動を実証する貴重な資料として国の特別天然記念物に指定されています。また、ハイビジョンホールでは大画面で蜃気楼の映像を観賞できます。



■開館時間
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
■休館日
4月・11月 無休
12月～3月 毎週月曜日、祝日の翌日休館
12月29日・1月1日 休館
■入館料
一般(高校生以上) 510円(団体410円)
小中学生 250円(団体200円)
※団体は20人以上

蜃気楼の証明書



一口メモ

蜃気楼を観賞するのに一番よい場所は、富山湾全体が見渡せる魚津港周辺の「しんきょうロード」沿いが最も良く、また、蜃気楼を見られた方には、埋没林博物館で証明書を発行しています。